

茨城県

主な

古墳マップ

古墳とは

高く土盛りした古代の身分の高い人の墓

<<マップを作ってみて気づいたこと>>

- ・古墳の種類では、茨城県内には前方後円墳が多い。
- ・一方で、帆立貝式古墳と双円墳の数は少ない。
- ・多くの古墳が、同じ時期につくられたものではないはずなのに、共同墓地のようにまとまっているように見える。
- ・それらは大きい川や湖の近くに密集してつくられているように見える。
- ・具体的には久慈川や那珂川周辺、霞ヶ浦周辺に密集している。
- ・同じように古墳が密集していても、久慈川や那珂川周辺には方形周溝墓が多く分布しており、霞ヶ浦周辺には前方後円墳が多く分布している。

<<疑問に感じたことと考えたこと>>

・古墳が密集してある場所と点々としか古墳がない場所は、どのような違いがあるのだろうか。
→密集しているのは川や湖のほり。生活するには水や食べ物が必要。だから川や湖の近くに住んだ方がよい。古墳を作れるような指導者のもとで、川や湖のほりに人々は住んだのではないだろうか。

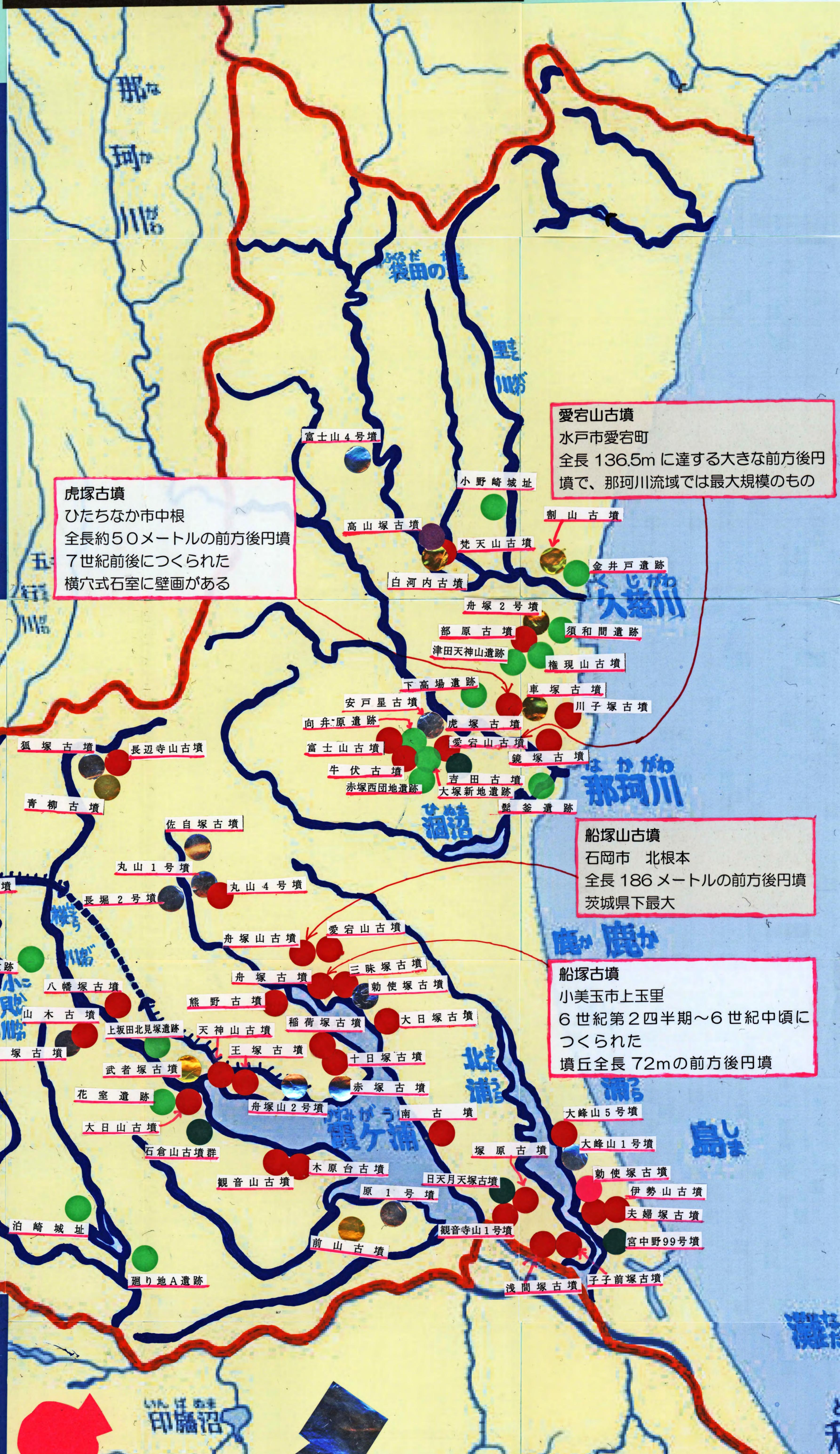
・点在している古墳については、まだ、発掘されていない古墳が周囲にあるのかもしれない。
川や湖の近くにない古墳については、何か暮らしやすい自然の特徴があったのかもしれない。あるいは、昔はそこに川や湖のようなものがあつたのかもしれない。

・なぜこんなに古墳の種類があるのか。

→時代によって、古墳を作る技術の変化があつたのではないかと。また、お墓にも流行というものがあるのかもしれない。

古墳マップのマーク

- → 前方後円墳
- → 前方後方墳
- → 円墳
- → 方墳
- → 帆立貝式古墳
- → 双円墳
- → 方形周溝墓



虎塚古墳
ひたちなか市中根
全長約50メートルの前方後円墳
7世紀前後につくられた
横穴式石室に壁画がある

愛宕山古墳
水戸市愛宕町
全長136.5mに達する大きな前方後円墳で、那珂川流域では最大規模のもの

船塚山古墳
石岡市北根本
全長186メートルの前方後円墳
茨城県下最大

船塚古墳
小美玉市上玉里
6世紀第2四半期~6世紀中頃に
つくられた
墳丘全長72mの前方後円墳

参考文献：帝国書院編集部編『中学校社会科地図』帝国書院、2022年
茂木雅博『常陸の古墳』同成社、2007年
国指定史跡【虎塚古墳】のご案内 ひたちなか市
国指定史跡【虎塚古墳】のご案内 | ひたちなか市公式ウェブサイト (hitachinaka.lg.jp)、2022年